



令和七年

大阪観世会定期能

第1回
6月14日（土）

第2回
12月13日（土）

半 蔀 大槻 文藏

鉢 木 替装束・替之型 観世 清和

山 姥 梅若 猶義

国 栖 白頭・天地之声 上野 朝義

開演 午後1時（両日とも）

於 大槻能楽堂

○お問合せ・お申込

大阪市中央区上町A-7
TEL 06-6761-8055

一回券 一般 8,000円
学生 2,500円
一期券(二回券) 14,000円

大阪観世会

■演目のご案内

能『半 蔀』（はじとみ）

雲林院で夏安居中の僧（ワキ）が立花供養をしていると、黄昏時に里女（前ジテ）が白い夕顔の花を仏に捧げるためにやってくる。里女は自分はすでにこの世にはない、五条あたりの者だと言って、捧げた花の蔭に消える（中入）。所の者（アイ）がその女は夕顔の上の霊だろうと言うので〈居語り〉、僧が五条あたりに赴くと、初秋のもの寂しいたたずまいの小家の半蔀を上げて夕顔の霊（後ジテ）が現われ、光源氏がここに泊まった夜のこと、源氏がはじめてこの家を訪れた時に詠んだ歌「折りてこそそれかとも見め黄昏にほのぼの見えし花の夕顔」を思い出して舞う〈舞グセ〉〈序之舞〉。やがて夕顔の霊は僧に回向を乞い、半蔀の内に消えるのだった。

能『山 姥』（やまんば）

都で「山姥の山廻り」を曲舞に作って評判を得た遊女（ツレ）、百万山姥が善行寺詣でを思い立ち、従者（ワキ、ワキツレ）とともに越後の険しい山道を行くと、急に日が暮れ、そこに現われた女（前ジテ）が宿を提供するから『山姥の曲舞』を謡ってくれと言う。女は自分は『山姥の曲舞』に謡われている山姥だと言い、夜になったら自分も謡おうと言って姿を消す（中入）。里人（アイ）が山姥の正体についていろいろ愉快なことを語ると〈居語り〉、本物の山姥（後ジテ）が現われて『山姥の曲舞』を謡うよう遊女に勧め、自身も「煩惱即菩提」という一如観を説いた曲舞を舞い〈舞グセ〉、山廻りのさまをみせ〈立廻り〉、このような遊芸も仏徳を称えるものであり、輪廻即得脱なのだと言って、山のかなたに消えるのだった。

能『鉢 木 替装束・替之型』（はちのき かえしょうぞく・かえのかた）

修行僧（ワキ）が鎌倉に上ろうとして雪の上野佐野（こうずけのくにのさの）に着き、とある家に一夜の宿を乞うが、留守居の妻（ツレ）から断られる。帰ってきた亭主（シテ）も見苦しい所だからと断るが、妻のとりなしで僧を呼び戻す。夫婦は粟飯でもてなし、僧のために愛蔵の梅桜松の鉢の木（盆栽）を焚いて暖をとる〈クセ〉。僧が素性を尋ねると、亭主は本領を一族に横領されて零落した佐野源左衛門常世だと答え、鎌倉に大事があれば、瘦馬で真っ先に馳せ参じるつもりだと言う。僧は回国中の最明寺入道時頼だったが、それと名乗らずに立ち去る（中入）。早打（アイ）が関八州の武士に鎌倉に参上せよとの最明寺の号令を告げると〈立チシャベリ〉、常世も瘦馬で馳せ参じ最明寺から本領を安堵され、梅桜松にちなむ所領を与えられたのだった。後は小書（特殊演出）により、シテとワキの装束が変わると共に最明寺の従者（ワキツレ）の人数が、複数となる。

能『国栖 白頭・天地之声』（くず しろがしら・てんちのこえ）

浄御原の天皇（天武）（子方、ワキ、ワキツレ）が大友皇子に追われて吉野に遁れ、国栖川べりの小家にたどり着くと、家の主の老夫婦（前ジテ、前ヅレ）が舟で戻ってくる。夫婦は天皇が数日前、何も口にしていないうと聞いて、根芹と釣ってきた鮎を提供する。漁翁が残った鮎を川に放すと鮎は生き返り〈鮎ノ段〉、漁翁はこれは都に還幸される瑞祥だと言う。そこに追手がかかるが、夫婦は舟を伏せて天皇を隠し、追手（アイ）を追い返す。天皇は還幸したら、かならずこの恩に報いようと言って感謝する。夫婦が天皇をどう慰めようかと思案していると、嶺の松風に乗って音楽が聞こえ、夫婦は姿を消す（中入）。すると、天女（後ヅレ）が現われて舞を舞い〈下リ端舞（楽）〉、続いて、吉野蔵王堂に祀られる蔵王権現（後ジテ）が現われ、王威を軽んじてはならないとして神威を示す。その結果、国は天武の聖代となったのだった。今回の後ジテは白頭となって幕内で謡い出すが、そこに「天」と「地」の文句がある。

『能楽手帖』の「展開」に小書きの説明を加えた

●大槻能楽堂へのアクセス



会場アクセス

- 地下鉄谷町線・中央線「谷町四丁目」下車
 - ⑩号出口を出て南へ約300m
 - (⑪号出口にエレベーター有り)又は
 - 谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」下車
 - ⑦号出口を出て北へ約350m
 - (⑦号出口にエレベーター有り)
- 市バス「国立病院大阪医療センター」下車
 - 南へすぐ
 - ※大阪駅から62号系統「住吉車庫前」行乗車
 - ※「あべの橋」(天王寺)から62号系統「大阪駅前」行乗車

・公演における許可のない写真撮影・テープ録音・携帯電話等においての撮影・録画は固くお断りいたします。
・発熱や咳など、風邪の症状がみられる場合は、ご来場をお控えいただきますようお願い致します。